

色の理解の発達過程



生後3ヶ月

原色から理解し始める

「赤いリンゴ」など色の名前を話しましょう。



生後6ヶ月

「赤」「青」の認識が始まる

色のはっきりしている物を見せたり、絵本を見せたりしてみましょう。



1歳過ぎ

原色+黄色中心に認識できるようになる

脳の神経芽細胞は活発になります。子どもの前で使うものを色違いで用意しましょう。「お母さんは黄色の箸」と色を繰り返し話し、会話を活発化することで興味を探り、広げていきます。

1歳半～
2歳

原色以外の色も認識し始める

脳はますます活発化します。「これは何色?」「どっちが赤かな?」とゲーム感覚で繰り返しましょう。当たったら大拍手! 保護者が好きな色からどんどん教えましょう。絵本などで教えても良い頃です。



4歳過ぎ

8~10色は覚え、中間的な色も認識

微細な感覚が育ち、原色だけでなく「ピンク」「水色」といった中間的な色も認識できてきます。海にも青と水色、濃い色・薄い色がある。赤いりんごも光が当たると白や黄にも見える。その事に気付けると深い感性が芽生えます。

5歳以降

微妙な感性も磨かれる時期

実物の色はもっと繊細で微妙です。絵だけではなく、言葉のニュアンスなど微妙な感性も磨かれる時期ですので、実物とたくさん向き合しましょう。写真や実物の模写の絵本などを真似して書くと、驚きを感じ、別の世界を知ることになります。

